

## 新市立高等学校の実施設等について

### 1 新市立高等学校実施設計について

#### (1) 概要

平成30年度に開校を予定している新市立高等学校は、平成25年7月から平成26年3月にかけて基本設計を実施し、引き続き実施設計を行い、平成27年5月に設計業務が完了しました。

新市立高等学校建設事業の事業費は、工事発注時における労務費や建設資材費等の上昇により事業費のさらなる増加が見込まれましたが、財政面を考慮し、総額192億円を上限として事業を進めてまいります。

#### (2) 実施設計のポイント

市立3校の歴史と伝統を踏まえつつ、これからの時代に対応しながら本市の教育のリーディング校として、近隣のSKIPシティなどとも連携し、立地特性を生かした施設となることをコンセプトにしています。

新校における施設配置の大きな特徴としては、新たな動線として、高校生活における様々な活動を通じて、互いに交流することで賑わい、生徒一人ひとりの記憶に残る場となるように、中央広場から東側にラーニングストリート、西側にフィジカルストリートとして東西を貫く新たな道「キャンパスロード」を配置しています。また、校舎棟の内部は2階から最上階までを吹き抜け空間とし、その上部に設置した膜屋根によって、明るく開放的なスペースが創り出されています。

##### ア 膜屋根

ラーニングストリートは「明るく」、「安全」な膜屋根を設置する。これにより、屋外のように明るく開放的な空間を演出します。

##### イ 1足制

大規模校となる新校では、スペースの有効利用が可能で、避難時も安全な「1足制」を取り入れることにより、建物出入口の複数設置が可能となり、避難時の混雑も緩和されます。

##### ウ 人工芝

グラウンドは、部活動の活性化と近隣への砂塵対策として、人工芝とする。雨によるコンディション不良の減少、校舎内への土の持ち込みがなくなり衛生面も向上します。

##### エ 空調設備

普通教室、特別教室、管理諸室は冷暖房完備としています。

##### オ エコスクール

膜屋根による自然採光に加え、雨水、井水、地中熱を活用するなど、周辺環境に配慮しています。

##### カ 防災対策

災害時における避難施設としての機能を備えるように、防災備蓄倉庫、マンホールトイレ等を整備しています。

#### キ 財源の確保策

国土交通省の補助事業である「地方都市リノベーション事業」を活用するほか、人工芝の導入を予定していることから、「スポーツ振興くじ助成金（toto）」の申請や川口市教育施設整備基金などの充当を計画しています。

#### ク 工事発注及び資材等の調達

市内業者への工事発注や、市産品・県産品の積極的な活用に努めます。

### （３）第２校地（現川口高等学校）について

第２校地における実施設計業務及び解体設計業務は取り止め、第１校地のアリーナ棟、グラウンド等工事発注後（平成３１年度以降）、改めてより現実的な建設コストを算出し、第２校地の整備内容を検討します。

### （４）実施設計の内容

イメージ図、設計概要、配置図、各階平面図（別添資料参照）

### （５）工事スケジュール（予定）

- 平成２７年度 ・校舎棟工事着工（平成２９年１２月竣工）
- 平成３０年度 ・新校開校
  - ・アリーナ棟等工事着工（平成３２年１２月竣工）
- 平成３２年度 ・グラウンド等工事着工（平成３３年８月竣工）
- 平成３３年度 ・工事完成

## ２ 県陽高等学校の跡地について

新市立高等学校開校に伴い、現在の市立３校は、平成２９年度をもって閉校するが、県陽高等学校跡地については、新校建設費用に充当するため売却するものとします。なお、売却する時期については、平成３２年度を予定しています。

## ３ 新市立高等学校の校名について

平成２７年度から、校名・校章・校歌・制服の検討にあたり、学校関係者や地域関係者の意見を聞くために、新市立高校開設準備委員会を設置しました。

まずは、校名の決定に向け、校名の公募を８月１日から９月１１日まで実施しています。公募の結果を受け、新市立高校開設準備委員会・新市立高校開設検討委員会において校名案を選定したのち、市議会の議決により校名が決定されます。

また、校章・校歌・制服については、平成２８年度～平成２９年度の決定を予定しています。

## ４ 担当・問い合わせ

学校教育部学務課新市立高校建設担当

電話：０４８－２５８－１６５７（担当直通）